

―特集―

自宅で療養する 新型コロナウイルス患者の支援で、 看護師たちには 何が求められたのか

コールセンターの経験、自宅訪問の体験

2021年6月下旬頃から始まった新型コロナウイルス感染症の第5波では、8月中旬、過去最多となる新規感染者数を記録しました。

急速な感染拡大を見せた時期、首都圏をはじめとした各地域で病床が逼迫する状況が生まれ、

自宅療養を余儀なくされる人も急増しました。

その中、自宅で療養する患者への対応を担った看護師たちがいます。

看護師たちは渦中の現場で何を見て、どのようにケアに当たっていたのか。

それは平時の看護実践と何が同じで、どう違っていったのか。

本特集では、自宅療養をする人を

コールセンター（架電・受電）でサポートした看護師と、

住まいに訪問して支援した看護師に話を聞きました。

企画監修 ● 山岸 曉美（慶應義塾大学医学部公衆衛生学教室講師／一般社団法人ヘルスコミュニティ研究機構機構長・理事長）